

中国社会学社会福祉研究専門委員会
2024年「東アジアフォーラム」自由研究発表報告

同志社大学大学院

張 芝菱

社区居宅养老服务「医養結合」における断片化のための分析枠組みの構築

2024年12月に廈門にて開催された東アジア社会福祉フォーラム2024において発表の機会を賜り、深く感謝申し上げます。本フォーラムでの貴重な経験、そして参加者の皆様との活発な意見交換は、私の研究を深化させる上で大きな刺激となりました。

中国は急速な高齢化の進展に伴い、医療と介護の需要増大に直面しており、社区居宅养老「医養結合」サービスの構築が喫緊の課題となっています。しかし、現状ではサービス提供の断片化が深刻な問題として顕在化しており、その現状の的確な把握と効果的な解決策の探求が不可欠です。本研究は、サービス断片化という概念を明確化し、多角的な評価のための分析枠組みを提示することで、中国における地域包括ケアシステム構築への貢献を目指しています。

本研究では、まず国際的な先行研究を精査し、サービス断片化に関する多様な定義を整理・分析しました。その上で、中国社会の現状を踏まえ、政策、組織、サービス、情報、資源という五つの主要な側面から、地域包括ケアサービスの断片化を包括的に捉える分析枠組みを構築しました。さらに、各側面における具体的な評価指標を開発することにより、サービス断片化の程度を客観的に測定するためのツールを提案しました。

発表後には、活発な質疑応答が行われ、多くの先生方から、本研究で提案した五つの側面に基づく分析枠組みおよび評価指標に関して、多岐にわたるご質問やご意見を頂戴いたしました。特に、分析枠組みの妥当性、評価指標の実用性、そしてその限界や今後の改善点等について、活発な議論が展開されました。

妥当性については、中国の現状を適切に反映しているか、他の側面の追加が必要かといった点が議論の中心となりました。これに対し、先行研究や中国の政策動向を根拠として、五つの側面の必要性と妥当性を改めて説明し、議論を深めました。評価指標の実用性については、具体的な活用方法やデータ収集の可能性に関する質問が寄せられました。これに対しては、具体的なデータ収集方法と分析方法を提示するとともに、実用性を高めるための今後の課題についても言及しました。さらに、評価指標の限界や改善点に関しても活発な意見交換が行われ、地域差への対応や質的データの活用など、今後の研究における重要な課題が明確になりました。

これらの質疑応答を通じて、評価指標の更なる精緻化や実用性向上に向けた具体的な方向性を見出す貴重な機会を得ることができました。今後の研究を推進する上で、大変有益な示唆をいただいたと認識しております。